

「一番星」・「にじのきらめき」栽培講習会を開催

7月14日、坂東普及センター主催、JA茨城むつみ普通作生産部会連合の後援により、「一番星」・「にじのきらめき」栽培講習会を開催しました。生産者及び関係機関で合計32名が参加しました。また、今回の栽培講習会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、現地検討のみの形式で開催しました。

はじめに、JA茨城むつみ管内で生産される「一番星」は、契約出荷が多く、実需者からは安定供給が求められていることから、「一番星」の多収栽培法について現地検討しました。また、全農いばらきから、「一番星」は実需者から高評価であることが説明されました。

次に、近年の登熟期間の高温の影響により、「コシヒカリ」等の主要品種で白未熟粒が発生し、玄米品質の低下が懸念されること、県西地域でイネ縞葉枯病が発生していることから、高温耐性とイネ縞葉枯病抵抗性を有する水稻新品種「にじのきらめき」の特性について現地検討しました。特に、「にじのきらめき」の施肥管理や生育目標についての質問が多く、生産者の関心が高いことが伺えました。

普及センターでは、新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮しつつ、管内の水稻生産の高品質安定化に向けた取組を支援していきます。

令和2年7月16日 坂東地域農業改良普及センター 四宮 一隆（成長産業）

